

TREE seminar

6月1日(水) 5209 17:00 ~ 18:00

個体数密度の自己制御? ミジンコに見られ

伴 修平 Shuhey Ban

滋賀県立大学環境科学部

6月1日(水) 5号館2階5209教室 17:00 ~ 18:00

要旨:

生物の個体数は密度依存的な効果によってロジスティック曲線を描くと言われる。これは個体数密度の増加に伴って、資源が枯渇するためと考えられてきた。しかし、生物が自ら個体数を調節することもある。ミジンコは湖沼に住む体長1.5mm程度の微小な甲殻類の仲間だが、しばしば1リットルあたり1,000個体以上になることがある。ミジンコが水を濾過する能力は、30ml/日にも達するので、1リットルあたり33個体もいれば1日で食べるものがなくなってしまうそうだ。しかし、そんなことにならないための自己調節機構が備わっているようだ。個体数が増加して自分の周りが込み合ってくると、ミジンコは食べる量を減らす。そして、より小さい体で成熟し、より大きい体サイズの子供を産むようになる。食事を控え、成長を抑えて、大きい子供を作るというわけである。ミジンコの込み合い応答について、それに関わる遺伝子発現・抑制に関する最新の知見と共に紹介する。

TREE seminarとは...

TREEとは "Toho Rendezvous with Ecology and Evolution" の頭文字をとったものであり、東邦大学理学部の生態学に関する研究室が中心となっておよそ月1回のペースで開いているセミナーの名称です。これまでに国内外の様々な研究者をお招きし、お話しした



尚、セミナー終了後に懇親会もごさいますので、そちらにも是非ご参加下さい。